

情報処理基礎 課題 7 (論文の完成 : 中間レポート)

システム自然科学研究科 宮原 一弘

1. グラフの作成と論文形式文書への挿入

課題 4 で作成した論文形式文書にはグラフが 6 つ使用されています (図 1~4)。これと同等のグラフを Excel で作成し、課題 4 で作成した文書中のグラフ (画像ファイル) を置き換えて論文を完成させてください。詳細については下記に挙げた点に留意してください。

- グラフの元となるデータは、共有フォルダからコピーした「癌死亡データ 1958-2017.xls」「癌罹患データ 1975-2015.xls」の 2 つのみを利用してください。対象とする調査年は、図 1 についてはデータに含まれているすべての年、図 2、図 3 については 1975 年から、死亡率、罹患率ともに 2015 年まで、図 4 については 1975 年から最新年のデータまでとすること。
- グラフのデザインやレイアウトは、オリジナルのグラフと同じである必要はありません。ただし、単に Excel でグラフを作っただけでは見栄えが良くないので、データの傾向を読み取りやすいもの、かつ美しいものを目指して作成してください。
- 図 2、図 3 については、それぞれ 2 つのグラフに分けて論文中に挿入しても構いません。ただし、その場合には図番号を分け、本文中の相互参照箇所もそれに合わせたものに変更すること。
- グラフ以外にも、論文形式の文書としてあるべき点をもう一度確認し、必要があれば修正の上、きれいで読みやすい論文に仕上げてください。課題 4 として提出された論文中で、気になった点を裏面に挙げておきます。

提出要領は前回と同様とします。PDF ファイルをネットワークドライブ上の共有フォルダ (Y:¥report¥宮原一弘¥情報処理基礎¥論文最終提出) に提出してください。期限は 11/26 (火)とします。

2. 提出された論文形式文書で気になった点

提出された課題において、例年見られる問題点を挙げておきます。非常に細かい点もありますが、完成した論文として見ると、気になってしまうものです。課題7の提出時には、必ず修正をしておくこと。

- タイトルの書体、サイズをふさわしいものに変更する。
- 名前に付与する脚注の位置を正しく配置する。
- 本文の書体は明朝体とする。また基本的な明朝体、ゴシック体以外の書体を用いない。
- フォントが揃っていない箇所がある。ほとんどが明朝体だが、一部の段落のみゴシック体、明朝体の太字になっている。図タイトルや見出しの設定を、後の段落まで引きずっているのが原因。
- 和文フォントの [B] ボタンによる太字化は行わない。
(図のタイトルに多い。ゴシックに変更した見出しについては、太字を解除する。)
- 英数字は欧文専用フォントを使用する。MS明朝やMSゴシックとなっているものは見た目が悪い。
- 相互参照について課題の指示にしたがっていない。【図 1】【文献参照 1 件】といった記述が残ったままになっている。【 】(すみ付き括弧)は削除する。
- 相互参照箇所で次のようなエラーが発生している。「エラー! 参照元が見つかりません」
- 見出しの連番がおかしい。特に「見出し 3」の形式が指示と違う。
- 見出しに下線などの装飾は不要。
- 見出し行にはインデント(左の余白)をつけない。
- 見出しの連番とタイトルの間の余白が大きすぎる。
- 段落の先頭は字下げ(基本的には全角1文字分)を行う。
- 文献の見出し(見出し1)に、連番は付けない。「5.」は削除する。
- 文献一覧のインデント、ぶら下げがおかしい。
- 図の縦横比を変更しない。
- 改ページの位置に気を付ける。
- ハイパーリンク(青文字、アンダーライン)は削除する。
- メールアドレスは大学のアドレスを記載する。
- ページ番号がない。
- ファイル名は指示通りに付けること。